

二世豊竹古靱大夫床年譜 (三)

(轉載不許)

年次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一觀

三月一日初日
(卅六日間)

前 義經千本櫻 文榮座
吉野山之段迄
切 艶容女舞衣 酒屋之段

四月十五日初日
(四十日間)

前 木下蔭狭間合戰 大序より
竹中官兵衛碧之段迄
切 鷗山古跡松 豐成館之段
鶴山之段

六月六日初日
(卅二日間)

前 鎌倉三代記 同座
三浦母閑居之段迄
切 新版歌祭文 座
座座の段迄
油屋之段迄
地方巡業
廣島初め九州各地

役場 (初役) 渡海屋之段次 (幽霊)

三味線 鶴澤三二

役場 (初役) 來作住家之段次 (ベカ)

三味線 鶴澤綱造

役場 (初役) 和田兵衛屋敷之段次

三味線 豊澤豊之助

津葉芽大夫、綱造參加外に京の路大
夫、花男、千代大夫、須磨大夫、長崎
に於ては十五日間種々難行あり、そ
りたる等面白き話多し

殿母大夫、師名勢見大夫を襲名、序
切を語る。豊澤仙昇、四世豊澤廣作名跡を相續

七月廿五日、六世竹本組大夫 (片岡
藤七) 東京にて歿す。法名釋明善、
行年五十九。八月十五日、六世竹本
對馬大夫 (天野吉太郎) 歿す。法名
釋孝道、行年七十。八月十七日、六
世竹松歿す。法名釋孝道、行年七十

年次

劇場並に狂言

古軼大夫に關する記事

淨瑠璃界一轍

明治卅九年(廿九歲)

引續き地方巡業

小倉より吳港に至り見臺、着類等を入質して前語人を大阪へ歸へし、津葉芽大夫一人廣島なる大本家へ行く

三日一月初日
(卅九日間)

前 本朝廿四季 文樂座
切 桂川榎理棚 大序より四段目迄
六角堂之段道行迄

役場 (初役) 明神之段奥
三味線 鶴澤綱造
(二度目) 景勝上使之段
三味線 豊澤豊之助

四月十八日初日
(四十八日間)

前 大江山酒顯童子 同座
中 懸飛脚大和往來 大序より土蜘蛛退治之段迄
淡路町之段より
新口村之段迄
切 衆仙人吉野花王 吉野山之段

役場 (二度目) 平井保昌屋敷之段
三味線 鶴澤綱造
(初役) 吉野山之段
掛合 安曇坊
三味線 鶴澤大三郎

六月十四日初日
(廿八日間)

前 伊賀越道中双六 大序より
切 茹萱桑門筑紫幟 岡崎之段迄
大内館之段より
高野山之段迄

役場 (初役) 宮内館之段奥
三味線 鶴澤大三郎
(初役) 唐木屋敷之段次 (蝶花形)
三味線 鶴澤綱造
津葉芽大夫本興行限り暫時休座

十月

大隅大夫、清六一座
北海道巡業

参加者
津葉芽大夫、静大夫、薰大夫、隅の
津五郎外、本巡業につき問題起り八
月出發の豫定を十月に延期、大阪よ

玉助、二世吉田玉造を相續、本興行にて披露。

源子大夫、師名竹本源大夫を相續す
是七代目也。四月十九日、三世野澤
吉平(山中衆助)歿す。法名釋正圓、
行年六十四。此人大酒家にして通稱
道修町と呼ぶ

【註】モライとはその興行中、振當
てられたる役場が順番とならざる
こと

十月三十日、五世竹本彌大夫(木谷
傳治郎)通稱堀江木谷師匠(匠)歿す。
法名瑠璃院教傳彌弘居士、行年七十

一月より

り函館へ直行す。芝居は満員續きに
て七日間の興行中大隅大夫は三日間
壺坂を語り好評、引續き札幌にて七
日間、小樽にて十日間、歸途更に函
館にて七日間を打續く、

此の時東京向島小松島杉山茂丸先生
の御邸へ御挨拶に出る。

臺灣巡業
座員大嶋大夫、津葉芽大夫、山城
大夫、仲助、仲治、仲二郎外四名
九州巡業
東京寄席出演

杉山茂久先生、後藤猛太郎伯爵の御
招添へて杉山茂久先生に於ける藤政太郎
伯御同船に杉山茂久先生、後藤猛太郎
臺北基隆にて渡臺す。市、後藤政太郎
臺北基隆にて渡臺す。市、後藤政太郎
若松に出演、歸京十月迄寄席出演、
又々文樂座歸參決定

前 八陣守護城
大序より
八ツ目迄

役場
(初役)浪速入江之段
掛合 蘭川

中 染模樣妹春門松 生玉之段
切 忠臣義士傳 赤垣出立之段 質屋之段

三味線
琴
野澤吉松
三世鶴澤清六

明治四十一年(卅歲)
一月二日初日
(四十六日間)

祇園祭禮信長記 同座 大序より大詰迄

役場 (初役) 割普請之段奥
三味線 野澤吉松
此役モライとなる
冷光院、天下茶屋、基立の三段を越

三月二十三日、二世吉田玉造（前名源吉）より玉七と改名、更に二世玉助襲名、歿す。法名永壽院善譽玉泉信士、行年四十二。
三月三十日、豊竹呂大夫（上西吉兵衛通稱ハラ／＼ヤ）歿す。法名釋慧聲。行年六十五。

祖大夫久々にて歸阪、二世豊竹呂大
夫を相續し出座、赤垣出立之段を語
り披露。

年 次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

三月一日初日
(四十二日間)

妹背山婦女庭訓
文 樂 座
大序より大切迄

四月廿三月初日
(四十二日間)

前 繪本太功記
同 座
大序より
大徳寺之段迄
切 壽椿理の松
住吉濱邊之段迄

六月十三月初日
(二十二日間)

前 平假名盛衰記
同 座
大序より
四段目迄
切 極彩色娘扇
増井之段迄

九月十七日初日
(三十三日間)

前 生寫朝顔話
同 座
大序より
宿屋之段迄
切 芦屋道満大内鑑
保名物狂之段
段迄

路、七五三、染一日替りにて勤む。
冷光院は越路よく、天下茶屋は七五
三よく、甚立は染の音聲にて立派、
夫々特色を發揮して好評、橋津大塚
爪先鼠之段、津大夫は花子之段を勤
む。

役場 (初役) 杉酒屋之段口(井戸替)
三味線 野澤吉松
替り役 花渡し之段
姫戻り之段

此頃舞臺にて花輪を贈ること流行し
師匠津大夫と津葉芽大某家より花
輪を贈らる。この事文樂座にては初
めての事なり。

役場 (初役) 切の生玉之段
三味線 野澤吉松

役場 (初役) 逆續之段中(茶吞嚙)
三味線 野澤吉松

役場 (二度目) 眞葛ヶ原之段
三味線 野澤吉松
(初役) 小瀬川之段
三味線 野澤吉松

是にて夏休